

自然に優しいお茶づくりで、消費者も地球も笑顔に――

世界農業遺産「静岡の茶草場農法」を茶園で実践するカネトウ三浦園の三浦さん。昨年10月には静岡県知事から顕彰状が贈られました。伝統的でありながら、SDGsに繋がる栽培方法を続けていきます。

【お茶で自然環境を守る】

切山地区で6.6haの茶園を管理する三浦さん。そのほとんどで、茶草場農法を実践しています。

「茶草場農法とは、茶園の周りや里山に自生するススキなどの植物を茶園に投入する農法です。有機物を投入することで、土壌の改善が見込まれます。毎年秋になると、草を刈って干し、細かく裁断した後、茶園の畝間に敷き込みます。化成肥料などが無い時代から、受け継がれてきました。継続的に実践したことで土が豊かになり、良いお茶の栽培が

きていると思います。また、定期的に茶園の周りの草を刈ることで、草地在管理され、希少な動植物が保全されています。おいしいお茶を育て、自然環境も守る、一石二鳥の農法ですね」

んだりする作業は、人力で行う必要があります。草刈りから天日干しまでは、一連の作業として6〜7人で20日間程度をかけて実施。毎年応援を依頼していますが、年々できる人が減少しています。人数



カネトウ三浦園 代表
三浦克暢さん(切山)

【作業の実情は人海戦術】

作業工程が多い茶草場農法。特に秋の作業では多くの人の力が欠かせないと、三浦さんはいいます。

「機械化できる作業もありますが、草を束ねたり敷き込

【消費者に選ばれるお茶作り】
「人も時間も必要とする茶草場農法ですが、いいものができる実感するから続けています。茶園の土作りは、一朝一夕でできるものではありません。毎年地道に有機物を投入することで、ふかふかな柔らかい状態を保ちます。それにより、茶の木は強く根を張り、多くの養分を吸収します。おいしいお茶を飲んでもらうために、今後も続けていきたいですね。しかし、この農法をまだ知らない人も多いのではないかと感じています。SDGsな農業は、これからもこの地域が世界に誇るべきもの。一人でも多くの人に、島田のお茶はおいしくて、環境にも優しいということを知ってもらいたいと思います。今後、『茶草場農法で作られたお茶だから』という理由で、購入してくれる人が増えたらうれしいですね」

世界中で持続可能な社会を目指す中、茶草場農法は地域が誇るべき先人の知恵。そのやり方を守り続ける三浦さんのお茶作りは、飲む人も地球も笑顔にさせます。

「機械化できる作業もありますが、草を束ねたり敷き込



県知事から顕彰状を受け取った三浦さん(左)

Shimadajin File #131

Story 島田人

